

事務事業評価シート(事前評価)

| | | |
|----------------|---------------------|-------------------|
| 事業コード 9-2-1 | 事務事業名 完全中学校給食の実施 | 所管部課 教育部 学校運営課 |
|----------------|---------------------|-------------------|

| | | |
|---------------|----------------|--|
| 施策コード 創2-3 | 施策名 学校教育の充実 | 施策目標 一人ひとりが輝き、生きる力を育む活力ある学校づくりをめざします。 |
|---------------|----------------|--|

| | | | |
|---------|---|--|--|
| 事務事業の概要 | 事務事業の目的 | 根拠法令等 | |
| | <p>市立中学校全9校において、学校給食法に基づく完全給食を実施し、中学校生徒の健康増進を図るとともに、給食を通じ食文化及び食育等を広く学習することにより、次代を担う生徒の心身の成長に寄与することを目的とする。</p> | <input checked="" type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 | |
| | 事業内容・実施方法等 | | |
| | <p>中学校完全給食について、小学校で調理を行い、中学校まで運搬するという小学校1校・中学校1校の組合せによる親子給食方式で実施する。計画としては平成21年度から平成25年度を目途に、21年度から3年間で小学校及び中学校3校ずつの実施設計・工事・給食提供を行い、22年度23年度にそれぞれ6校ずつ順次着手する。</p> <p>具体的な作業としては 小学校9校の調理場等改修工事 中学校9校の昇降機設置等工事 給食及び移送業務委託 給食機器、備品、消耗品の購入 備品等及び施設設備等の修繕及び保守管理 等がある。</p> | | |
| 事業開始時期 | 平成21 年度 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 事業費データ | 項目 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 目標 | 25 年度 |
|---------------------------|--------|----|--------|---------|---------|---------|-----------|
| | 事業費(A) | | | 28,944 | 323,025 | 409,132 | |
| 内:国庫支出金・都支出金 | | | | | | | |
| 内:地方債 | | 千円 | | | | | |
| 内:その他 () | | | | | | | |
| 内:一般財源 | | | 28,944 | 323,025 | 409,132 | | 1,463,599 |
| 所要人員(B) | | 人 | 1.10 | 1.10 | 1.10 | | 4.9 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | | 千円 | 8,982 | 8,982 | 8,982 | | 40,009 |
| 臨時職員等賃金(C') | | 千円 | | | | | |
| 総コスト(D)=(A)+(C)+(C') | | 千円 | 37,926 | 332,007 | 418,114 | | 801,110 |
| 単位当たりコスト | | | | | | | |
| (E)=(D)/ (完全給食施設設備等工事着手数) | | 千円 | 6,321 | 27,667 | 23,229 | | 44,506 |

| 評価指標の設定 | 活動等指標 | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 目標 | 25 年度 |
|--|---|-----|----|------|------|--------|----|-------|
| | 完全給食施設設備等工事着手数 | 目標値 | 校 | 6 | 12 | 18 | | 18 |
| | 完全給食提供可能数 | 目標値 | 食 | 0 | 0 | 1,281 | | 3,942 |
| | (指標の説明 など) 完全給食施設設備等工事対象18校の進捗状況 完全給食提供可能数 整備完了校の生徒総数 | | | | | | | |
| | 成果指標 | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 目標 | 年度 |
| | 一 給食対象者数(全生徒) 次 中の給食喫食可能者数 の割合 | 目標値 | % | | | 32.50% | | 100% |
| | | 実績値 | % | | | | | |
| | 二 次 | 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | | | |
| (指標の説明 など) (一次) 給食対象者数(全生徒)に対する給食実施校の給食喫食者数の割合を求め、提供能力に対する実効果を検証する。 | | | | | | | | |

| | | |
|-------|----------------------------|---|
| 事業環境等 | 市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など) | 西東京市市民意識調査(H19.9)のアンケート結果において、現在の中学校での給食の提供について、子育て環境に対する今後の重要度では、57%強が「重要」「やや重要」と考えている。教育委員会が実施する教育長と児童・生徒の保護者懇談会では毎年度共通して中学校給食を望む多くの声が上がっている。また、電話等で「西東京市へ転入を考えているが、中学校の給食はあるのか」を問われることが多い。 |
| | 事業実施上における制約や 財源確保等 | 学校給食法では、学校給食に必要な施設・設備に関する経費及び学校給食に従事する職員人件費は学校設置者の負担であり、給食食材費等は児童・生徒保護者の負担と規定されている。本市は、都内26市で中学校完全給食実施の計画を立ち上げた最後の市である。 |
| | 代替・類似サービスの有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 既存の外注弁当方式 |

| | | |
|----------------|---------------------|-------------------|
| 事業コード 9-2-1 | 事務事業名 完全中学校給食の実施 | 所管部課 教育部 学校運営課 |
|----------------|---------------------|-------------------|

| | | |
|---------------|----------------|--|
| 施策コード 創2-3 | 施策名 学校教育の充実 | 施策目標 一人ひとりが輝き、生きる力を育む活力ある学校づくりをめざします。 |
|---------------|----------------|--|

【一次評価】

| 検証項目 | | ランク | <p>検証項目の見方 A: 事業実施の意義を検証する項目 B: 事業の内容・実施方法を検証する項目 C: 市民ニーズの反映度を検証する項目</p> | 一次評価 | 検証項目、評価の判断理由 事業化する上での課題等 |
|------|-------------|-----|---|--|--|
| A | 事業の優先度(緊急性) | 3 | | <input checked="" type="checkbox"/> 事業化 <input type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | <p>学校給食は、実際の食事を通して、正しい食事のあり方や、好ましい人間関係を身につけることを目的として行われる教育活動である。また、学校給食法の改正により、学校給食を活用した食に関する実践的な指導の充実が要請されており、学校給食法に基づく中学校完全給食は、必要性が高く、後期基本計画に位置づけられた市の最重要課題のひとつである。</p> <p>市立学校給食運営審議会の答申に基づき、庁内の検討委員会で検討した結果、小学校の給食設備等を有効活用した親子調理方式が最も効率的であり、21年度から25年度に計画的に整備工事を行い、順次実施することが適切であるという結果が得られている。費用負担については、学校給食法により、給食に必要な施設・整備に要する経費は学校設置者である市が負担することとされている。市民意識調査では、子育ての環境に対する中学校給食の提供について重要度が高くなっており、市民ニーズは高い。</p> <p>今後は、給食設備整備等の初期投資の額が大きいことを踏まえ、厳しい財政運営の中で、経常経費の肥大化につながらないよう、給食提供にかかる経費の適正化を図っていくことが大きな課題となる。また、保護者が負担する食料費相当の給食費については、額の適正化を検討するとともに未納の防止についても検討する必要がある。</p> |
| | 事業の必要性 | 2 | | | |
| | 事業主体の妥当性 | 3 | | | |
| B | 直接のサービスの相手方 | 2 | | | |
| | 事業内容等の適切さ | 3 | | | |
| | 受益者負担の適切さ | 3 | | | |
| C | 市民ニーズの把握 | 3 | | | |

【二次評価】

| 検証項目 | | ランク | <p>検証項目の見方 A: 事業実施の意義を検証する項目 B: 事業の内容・実施方法を検証する項目 C: 市民ニーズの反映度を検証する項目</p> | 二次評価 | 検証項目、評価の判断理由 事業化する上での課題等 |
|------|-------------|-----|---|--|---|
| A | 事業の優先度(緊急性) | 3 | | <input checked="" type="checkbox"/> 事業化 <input type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | <p>中学校給食の導入は、本市における懸案事項の一つであったが、後期基本計画において、計画的な完全給食への移行と実施のための基盤整備が掲げられた。</p> <p>事業化については、すでに平成21年度の実施計画において、年次計画が示されているが、親子方式による親子の組み合わせについては、2期以降の組み合わせが決まっていない状況にある。学校の適正規模・適正配置や教育施設の改修計画との関係など、今後、中学校給食を進める上での課題はあるものの、早い時期に実施校の組み合わせと各中学校の実施時期の方向性を示すべきである。</p> <p>また、実施にあたっては、3億を超えるランニングコストを見込んでいっているとされているが、効果的かつ効率的な運営に努め、コストの抑制を図りたい。</p> <p>なお、中学校給食実施にあたっては、制度に対する説明だけでなく、栄養面や親となる小学校給食の質の低下に対する懸念など、完全実施に対して保護者が抱える不安も多いものと推測するので、丁寧な対応に努める必要がある。</p> |
| | 事業の必要性 | 2 | | | |
| | 事業主体の妥当性 | 3 | | | |
| B | 直接のサービスの相手方 | 2 | | | |
| | 事業内容等の適切さ | 3 | | | |
| | 受益者負担の適切さ | 3 | | | |
| C | 市民ニーズの把握 | 3 | | | |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業化する上での課題等 |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業化 <input type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | <p>中学校給食は、食育の推進や生徒の健康増進の観点から重要な位置づけにあり、早期に実施校の組み合わせや実施時期の方向性を決定したうえで、計画的に実施すべきと考える。</p> <p>実施にあたっては、給食費未納の防止策を検討するとともに、多額になると予測されるランニングコストの抑制や、保護者の不安への適切な対応に努められたい。</p> |